授業改善等に関する報告書（2020 年前期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS（Lerning Management System）manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

［2020（前期）美学美術史学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
日本美術史入門ａ	仲町　啓子	一年生にとって、初めての大学の授業、そして未知に近い美術史の授業ということで戸惑いもあったと思いますが、多くの学生さんが内容をかなり理解していてくれて良かったと思います。双方向授業という教師にとっても慣れない経験でしたが、不便な授業を補うために予習用の資料をアップしたため、多くの学生さんが予習にも時間をさいていてくれたのは、コロナ禍での予期せぬ収穫でした。
西洋近代美術史特講ａ	六人部　昭典	2020年度前期はコロナ禍による「オンライン授業」で、教員も試行錯誤の状態だった。「作品を見る」ことを共有して講義したいと考え、「zoom双方向」（録画をアップ）で実施。アンケート結果（回答は約60%）を見ると、概ね意図に沿った授業になったと思われる。これは学生の熱心さの故だと思う。また、録画をアップしたことで、復習が充実したことは、後の授業でも（対面に戻った場合も）、活用することを考えたい。
身体文化論	串田　紀代美	本授業のでは、前衛芸術を中心にいわゆる「概念」について学びました。難しい概念が理解できた、美術史の理解にも役立つ、多様な考え方が身についたというコメントは、大変励みになります。急なメディア授業に文句を言わず対応してくださったことに感謝いたします。履修者の自己成長が感じられる授業運営の工夫が、今後の課題だとわかりました。学生のみなさんの御協力に、あらためてお礼を申し上げます。
日本近代美術史入門ａ	児島　　薫	今学期は私自身初めてのオンデマンド授業をおこないました。毎回試行錯誤で特に最初の頃はみなさんも不慣れで大変だったと思いますが、よく学び、成果をあげています。後期はオンラインを増やし、来年度教室授業の戻ったときのための助走としたいと考えています。この調子でやっていきましょう。
基礎演習	小倉　絵里子,金原　さやこ 粂　和沙,嶋田　紗千	アンケートへの回答をありがとうございます。初めてのオンデマンド授業で戸惑うこともあったかと思いますが、みなさんしっかり受講してくださいました。いただいたご意見、ご要望はしっかり受け止めて、今後の授業運営に反映していきたいと思います。提出していただいたディスクリプション課題には、各担任からコメントをつけて返却しています。授業で配布したプリントとあわせてよく復習し、今後に活かしてほしいと思います。
民俗芸能入門a	串田　紀代美	前期は、入学とともにメディア授業となり大変な思いをなさったことと思います。文句ひとつ言わず、臨機応変に対応してくださったことに、まずはお礼を申し上げます。アンケートには、あたたかいコメントが記載されており、大変励みになりました。不満な点も多々あったかと思いますが、無事にオンデマンド型授業を終わることができたのは、みなさんの協力のおかげです。今後は、学生のみなさん一人ひとりの自己評価がさらにアップするような授業運営の工夫が課題だと感じました。コロナ禍ではもうしばらくご不自由を強いてしまいますが、個々に目標を設定し、ブレずに邁進してください。
日本近代美術史特講ａ	児島　　薫	みなさん、新しい事態のなか、よく努力してくださったと思います。こちらも当初は試行錯誤でしたが、かなり満足していただけたようでよかったです。美美のみなｓなんは自己に対する評価が厳しいようで、「あなたのこの授業に対する自己採点（成績評価）は何ですか？」の結果は１年の科目でもこちらでも大学の平均値より低くでています。成長を実感できたという人が多いので、もっと自分を評価してあげていいのではないかと思います。来年度は対面授業が可能と信じて、後期はそれにむけて少し助走をつけていきたいと思います。
卒論ゼミａ	椎原　伸博	コロナ禍で大変な状況であり、慣れないzoomでの面談となりました。前期はどうにか乗り切りましたが、後期はこれから本番です。気を引き締めて、卒論提出まで頑張りましょう。
卒論ゼミａ	仲町　啓子	回答数が少ないのは、致し方ないかもしれません。ゼミは遠隔だとやや緊張感に欠けたかもしれませんね。
卒論ゼミａ	宮崎　法子	対面ができないなかでの卒論指導で、とまどいも大きかったことと思います。回答数が少なかったため、人によってばらつきがかなりあったようです。ゼミを通じて自身の成長を感じることが出来なかった学生さんがいたことは残念でした。今後も個別の状況に合わせて、質問しにくかったという回答もあったので、個別指導や個人指導という形をとって、卒論作成をサポートして行きたいと思います。
卒論ゼミａ	六人部　昭典	2020年度前期はコロナ禍による「オンライン授業」で、教員も試行錯誤の状態だった。特に「卒論ゼミ」は、対面授業が必然の科目であり、心配だった。ゼミの学生が「作品を見る」ことを共有して進行したいと考え、「zoom双方向」（レジュメも「相互閲覧」で共有）で実施。アンケート結果（回答は約90%）を見ると、概ね意図に沿った授業になったと思われる。これは学生の熱心さの故に他ならない。後期は、草稿に基づく個別面談（zoom）が中心となるが、学生の動機を大切にして、卒論の完成に結び付けたいと思う。

［2020（前期）美学美術史学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
中国美術史特講ａ	宮崎　法子	これまでと全く違う状況のなかで、オンデマンド授業をしましたが、みなさんよく付いてきてくれたと思います。例年よりも予修の時間も長くかかったようで、多くの科目をこなして大変だったと思います。 いつもと違って解説を画像とともに文章にしたり、論文を読んだり、小テストで毎回確認したりしたので、盛りだくさんな内容にもかかわらず、理解も例年より上がったように感じています。今後の授業の参考にしたいと思いますが、やはりもう少し内容を減らして、双方の負担を軽減しつつ、分かりやすい授業を心がける必要があるかもしれません。
日本美術史演習ａ	仲町　啓子	遠隔授業での演習にはこちらもすっかり戸惑いました。シラバス通りにはなかなかいけなかったですが、はじめの頃の質問形式の作品の読み解き、後半の作品分析の発表、ともに皆良くついてきてくれたと思います。お顔が見えないのがとても残念でした。やっと少人数授業となって皆のお顔と名前を覚えるのが演習の楽しみの一つでしたのに。
卒論ゼミａ	児島　　薫	授業が基本的に個人指導で課題提出のやりとりで、それに応じて進める方法でした。そのためアンケートの設問と適合しないことが多く、答えにくかったかもしれません。今後の進行のしかたについて要望がありましたら、直接お知らせください。いずれにしても後期はもう提出に向けて全力で走りましょう。
卒論ゼミａ	駒田　亜紀子	例年、卒論ゼミは、対面授業が最も効果的とされる授業ですが、2020年度前期は、すべてオンデマンド方式となり、いろいろとご不便をおかけしました。後期は、卒論提出に向けて、原則として毎週対面式の授業で進める予定です。前期に行き届かなかった部分を挽回したいと思います。
卒論ゼミａ	武笠　　朗	授業は双方向型で進めました。はじめはうまくいきませんでしたが、なんとか軌道に乗り、この方法もありかと思えるようになりました。 もう少し上手にzoom機能を使えば、さらに双方向性が高まるものと期待されます。研究してみます。ただ4年生最後の1年間がzoomではちょっと気の毒でした。後期の卒論ゼミは対面にすべきであったかとちょっと反省しています。
西洋近代美術史演習ａ	六人部　昭典	2020年度前期はコロナ禍による「オンライン授業」で、教員も試行錯誤の状態だった。特に「演習」は対面が必要であり（見学授業を含め）、卒論に繋がる重要な科目なので、心配だった。「作品を見る」ことを共有して授業を進めたいと考え、「zoom双方向」（パワーポイントをアップ）で実施。アンケート結果（回答は約40%だが）を見ると、概ね意図に沿った授業になったように思われる。これは学生の熱心さの故に他ならない。また、パワポをアップしたことで、復習が充実したことは、後の授業でも（対面に戻った場合も）、活用することを考えたい。後期は学生発表が中心となるが（zoom双方向）、学生一人一人の関心を引き出し、卒論への基礎づくりを行いたいと思う。
民俗芸能ａ	串田　紀代美	前期は、突然のメディア授業導入で大変ご迷惑をおかけしました。アンケートに回答してくださった方は、概ね満足してくださったと理解しました。しかしながら「民俗芸能入門」と比較するとアンケート回収率が低く、まずはこの点を改善する必要があります。美術史専攻の中にある「民俗芸能」は、みなさんにとって違和感を感じるかもしれません。美術史との連携を図ることが、今後の授業運営の課題の一つであると感じました。コロナ禍の間は、もうしばらくご不自由を強いますが、目標に向かって邁進してください。
西洋近代美術史入門ａ	六人部　昭典	2020年度前期はコロナ禍によるオンライン授業で、教員も試行錯誤の状態だった。特に「入門a」は１年生が必修で学ぶ科目であり、心配だった。 「作品を見る」ことを共有して講義したいと考え、「zoom双方向」（録画をアップ）で実施。アンケート結果（回答は約80%）を見ると、概ね意図に沿った授業になったと思われる。これは学生の熱心さの故に他ならない。また、録画をアップしたことで、復習が充実したことは、後の授業でも（対面に戻った場合も）、活用することを考えたいと思う。
中国美術史演習ａ	宮崎　法子	これまでとは全く違う状況のなかで、手探りの演習でした。オンデマンド中心の前半のトレーニングと、後半の発表など、みなさんとても積極的に参加してくれました。いつもなら教室で発言を求めても、一人の発言時間は限られてしまっていたのが、今年は三十人もの学生さん全員がそれぞれ毎回、文章で答えてくれたので、より充実した演習が出来たと思います。それをすべてチェックするのは大変でしたが、みなさんが、一生懸命書いてくれていて感心しました。絵をよく見ることや、絵について語ることに関して、みなさん相当進歩したように感じています。まだ一緒に作品を見ることは出来ない状況ですが、後期もさらに力を付けていけるよう努力しましょう。

［2020（前期）美学美術史学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
中国美術史入門ａ	宮崎　法子	みなさん、本当によく頑張ってくれました。ありがとう。慣れないリモート授業で、これまで見たこともない中国の美術を学ぶのは大変だったと思います。今回はほぼオンデマンドで、画像に解説を添えたものを提示し、小テストで毎回確認という形で授業をしましたが、予習復習も含めて、皆さんの努力があったため、例年よりも分かりやすかったという回答が多かったようです。後期はオンデマンド出なく、双方向を中心に授業していますが、一つの時代や作品にかける時間は前期よりゆっくりとれると思います。まだ対面はなかなか出来ない状況ですが、後期も頑張ってください。質問や要望、意見などは遠慮せずにどんどんマナバから上げてください。
日本美術史特講ａ	仲町　啓子	不慣れなZOOM授業で皆さんにはご迷惑をおかけしました。ただ、予習用の資料をアップしたので、かなりの学生さんがかつての学年に以上に予習に時間を割いてくれたのは、コロナ禍における唯一の予期せぬ収穫でした。
日本近代美術史演習ａ	児島　　薫	前期はこちらも初めてのオンライン、オンデマンド授業で、月曜、火曜、水曜と授業が続くなかの最後の授業のためか、疲れて声が聞き取りにくいところがあったようです。後期は気をつけます。また、回答者全員が授業によって成長したという実感を持っているのですから、もう少し自己評価を高くしてもよいように感じました。
グローバル・アートスタディズｆ	串田　紀代美	前期は、急にメディア授業となり、学生の皆さんには大変ご迷惑をおかけしました。それにもかかわらず、積極的に授業に参加してくださった皆さんの真摯な態度に心を打たれました。毎回課題を提出するのは大変だったと思いますが、文句を言わず最後まで目標達成してくださった方の多さに、正直大変驚きました。「書くことに対して苦手意識をなくしたい」という履修生が多かったと思いますが、みなさんからの「苦手意識が少なくなった」「1年次よりもレポート構成が理解できた」といったコメントは大変励みになります。アンケート回収率が低いのが、この授業の大きな問題点だと感じました。この授業での経験が、書くことへの自信に繋がることを願っています。
美学特講ａ	椎原　伸博	前期は授業の配信遅れなどがあり、申し訳ございませんでした。教える方も手探りの状態でしたが、みなさん良くついてきてくれました。前期のビデオは気が張っていたせいか、かなり長いものであり、集中して受講するのが大変だったと思います。後期は、短めのビデオに変更して、受講しやすいようにしています。
仏教美術史演習ａ	武笠　　朗	授業は双方向型で進めました。はじめはうまくいきませんでしたが、なんとか軌道に乗り、この方法もありかと思えるようになりました。もう少し上手にzoom機能を使えば、さらに双方向性が高まるものと期待されます。研究してみます。みなさんには、通信環境のさらなる整備改善を求めます。パソコンで見ないとダメですよ、今後の卒論を踏まえても。
西洋美術史入門ａ	駒田　亜紀子	2020年度前期は、すべてオンデマンド方式となり、いろいろとご不便をおかけしました。とくに、前期の授業は、建築や彫刻など、対面授業でも説明がむつかしい項目が多い中でも、皆さんはよく頑張ってくださったと思います。後期の授業では、音声を追加したコンテンツでさらに改善を目指します。
仏教美術史入門ａ	武笠　　朗	今年度はオンデマンド形式となり、授業形式が全く変わりました。それでも授業の双方向性については、依然として課題です。講義中心の授業形式なのでなかなかむずかしいのですが、少しでも高めるべく工夫をしたいと考えます。他の先生の試みを取り入れたりとかしてみたいと思います。皆さんには、授業動画をしっかりと聞く努力を求めます。
西洋美術史演習ａ	駒田　亜紀子	演習は、本来は、教室での質疑応答など、対面授業を重視すべき科目ですが、2020年度前期には実施できませんでした。オンラインでは提示できる資料にも限りがあるため、不自由な思いをされたこともあろうかとおもいます。後期には、もう少し図書館を利用した授業を展開できるよう、工夫を進める予定です。
西洋美術史特講ａ	駒田　亜紀子	2020年度前期は、すべてオンデマンド方式となり、いろいろとご不便をおかけしました。前期の授業は、祭壇画のような立体的な作品が中心で、対面授業でも説明が難しい項目が多かったのですが、皆さんはよく頑張ってくださったと思います。オンデマンド授業で分からない箇所を繰り返し見てくださったのもよかったと思います。
美学演習ａ	椎原　伸博	アンケート回収率は約半数なのですが、そこそこの授業評価となりました。これも皆さんの学修意欲の結果と思います。本来であれば、ローテクの模造紙に手書きで発表をするはずだったこの授業でした。しかしコロナの影響で、そういった手仕事の部分はなくなりましたが、クラスルームを活用して､友人と共同で作業し、友人同士のコミュニケーションが深まったことと思います。また、まだまだ不慣れな学生さんも見受けられました。後期も対面授業はかないませんでしたが、この状況でいかに自分が自力で調べ、それをまとめて発表していくという技術を深めていきましょう。その能力が卒業論文執筆に絶対やくだちます。

［2020（前期）美学美術史学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
卒論ゼミａ	織田　涼子	アンケートへの回答ありがとうございました。6月半ばまで遠隔授業が続き不便が多かったと思いますが、熱心に各自のテーマに取り組みました。ご自宅での制作体験を対面授業で共有できたことにより、他者からの意見を制作に反映することができたように見えました。絵との向き合い方、各種技法に関しては全ての疑問にお答えできず反省いたしますが、それぞれが発展的な作品にも挑戦し、7月には卒業制作の大枠をつかむことができました。Q.14の自己採点（成績評価）が低いのは気になります。意欲的に取り組んだからこそ自己採点が厳しいものになるとは思いますが、素晴らしい制作姿勢でしたので自信を持って今後に繋げてもられば幸いです。
美学入門ａ	椎原　伸博	皆さん、美学入門a　初めての領域の授業でしたが、よく頑張ってくれました。例年この授業は、難解ということで脱落する学生も多くいました。 しかし、アンケート結果が例年より良いのはオンデマンド授業で、繰り返し確認が出来たからかもしれません。入門ｂは更に難解なテーマも出てきますので、引き続き気を引き締めて授業に臨んでください。 また、前期の授業では手探りの状態だったこともあり、かなりビデオが長いものになってしまったことを反省しています。後期は、出来るだけコンパクトにまとめて、理解できない部分があれば、繰り返し視聴し、また教科書を良く読み、辞典をみるなどして、自力で学修する能力を養ってください。実践女子大学の図書館にはリモートアクセスで、さまざまなデータベースを使うことが出来ますので、それを利用するのも必要でしょう。とにかく、美とは何か、芸術とはなにかという、永遠の問いに対して、自分なりの意見をもてるように頑張っていきましょう。
デザイン実習ａ	下山　肇	かつて誰も体験したことのない「遠隔双方向授業」は、学ぶ側、伝える側、双方戸惑いもあった。 しかし現状を見るといまだ先行き不透明な状態が続いており、今後も「遠隔」授業は残っていくだろう。 遠隔会議システム「Zoom」を使用しての授業運営について、 デメリットとして挙げられた、 「対面型の方が説明がよりわかりやすいし、不明な点を明確に聞き出すことができる」 「すぐ先生に相談出来る状態にしづらい生徒がいる」 という部分は改善すべき指摘であるが、今後も「遠隔双方向」がデフォルトであると捉え直し、 新たなコミュニケーションの方法を双方で模索する必要があるだろう。 また一方で、 「制作においては、家で時間を気にせず取り組めた」 「学校へ行くには最低限の回数で必要な時のみ行い、その他はzoomで行うという今回の授業方法は良かった」 といった意見のように、授業内容によって「対面」「遠隔」の長所を生かしあうハイブリッド型の授業を構築していくことになるだろう。
絵画入門ａ	織田　涼子	アンケートへの回答ありがとうございました。6月半ばまで遠隔授業、対面授業でも不便があったと思いますが、熱心に課題に取り組みました。複数モチーフのデッサン、静物着彩などの発展的な作品も大変よくできました。例年よりも予習・復習時間を取った方が多く、manabaや配布資料を活用できたようで何よりです。そのことがQ.11の「成長が実感できた」という回答に繋がったのだと思います。Q.14の自己採点（成績評価）は低めですが、素晴らしい制作姿勢でしたので自信を持って今後に繋げていただければ幸いです。
デザイン入門ａ	下山　肇	かつて誰も体験したことのない「遠隔双方向授業」は、学ぶ側、伝える側、双方戸惑いもあった。 しかし現状を見るといまだ先行き不透明な状態が続いており、今後も「遠隔」授業は残っていくだろう。 遠隔会議システム「Zoom」を使用しての授業運営について、 デメリットとして挙げられた、 「授業の進行が少し早いと感じました。」 「説明と同時にパソコンを操作するのは大変だと感じた」 という指摘は今後、改善すべき点である。 今まで当たり前であった「対面」でのコミュニケーションとは異なる新たな「会話のタイミング」を開発する必要性がある。 その一方で、 「遠隔双方型でも画面共有を用いた説明で見やすかった」 「先生と一緒に試行錯誤しているような感じがあって安心感がありました」 といった意見のように、「遠隔授業」のメリットも見受けられる。 今後は内容によって「対面」「遠隔」の長所を生かしあうハイブリッド型の授業を構築していくことになるだろう。
絵画入門ａ	織田　涼子	アンケートへの回答ありがとうございました。6月半ばまで遠隔授業が続き、対面授業でも不便があったと思いますが、熱心に課題に取り組みました。複数モチーフのデッサン、静物着彩などの発展的な作品も大変よくできました。例年よりも予習・復習時間を取った方が多く、manabaや配布資料を活用されたようで何よりです。そのことがQ.11の「成長が実感できた」という意見に繋がったのだと思います。Q.14の自己採点（成績評価）は低めですが、素晴らしい制作姿勢でしたので自信を持って今後に繋げていただければ幸いです。

［2020（前期）美学美術史学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
デザイン入門ａ	下山　肇	かつて誰も体験したことのない「遠隔双方向授業」は、学ぶ側、伝える側、双方戸惑いもあった。 しかし現状を見るといまだ先行き不透明な状態が続いており、今後も「遠隔」授業は残っていくだろう。 遠隔会議システム「Zoom」を使用しての授業運営について、 デメリットとして挙げられた、 「授業の進行が少し早いと感じました。」 「説明と同時にパソコンを操作するのは大変だと感じた」 という指摘は今後、改善すべき点である。 今まで当たり前であった「対面」でのコミュニケーションとは異なる新たな「会話のタイミング」を開発する必要性がある。 その一方で、 「遠隔双方型でも画面共有を用いた説明で見やすかった」 「先生と一緒に試行錯誤しているような感じがあって安心感がありました」 といった意見のように、「遠隔授業」のメリットも見受けられる。 今後は内容によって「対面」「遠隔」の長所を生かしあうハイブリッド型の授業を構築していくことになるだろう。